

【一】 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ぼく(広記)は、お父さん、妹の奈奈、トモちゃんと一緒に大好きなベ이스タースを応援するために、横浜スタジアムに行った。今日は番長こと三浦大輔投手が投げていたが、大量点を取られてしまった。トモちゃんは、女の子ながら野球部のエースで、いつもは元氣よく応援するのに、今日はなんだか元氣がない。ぼくは、少し心配だった。

なんと、番長は初回だけで合計6点も取られてしまったんだ。

こんなとき、ピッチャーってどんなことを考えるんだろう。ぼくなら、きつと

「あーあ、やつちまったな。どうせもう今日は勝てないな」ってため息をつくと思う。そのときだった。

観客席のあちこちから、みんながさけび出したのだ。

「番長！ がんばって。」

「まだまだ行ける！」

お父さんも、両手を口に当てた。

「バンチョー——ッ！ ここからだっ。」

思わずつられて、ぼくもどなった。

「番長、ファイト——ッ。」

左どなりで、トモちゃんが何かつぶやいている。そんなに小さい声じゃ、番長にとどかないよ。そうツツコむつもりで、まずはきき返した。

「なんだったって？」

「番長は、どうして……。」

「ん？」

「どうしてこんなに打ちこまれても、応援してもらえるのかな？」

「え？」

「ずるいよ。番長……。」

トモちゃんは、左手首につけた背番号15のリストバンドで、鼻と目をこすった。^①

「ずるいつて？」

「わたしなんてさ、きのうの試合、5点取られて。」

そうだったんだ。知らなかった。

「そしたら、『トモはそろそろ限界なんだ。やっぱ女だから』っていうやつがいて。」

「だれだよ、そんなこというの。」

— JA1A_1 —

「そしたら、別のだれかが『トモの時代は終わりだな。おれたち男が、どんどんトモをぬいてくチャンスだ』って。」

「ヤなこというな。」

「でも、事実なんだ。きつと。」

「え。」

「ほんとに身長、追いつかれてるもん。」

そんなことないよ、とはいえなかった。五年生のころに見たトモちゃんより、この間グラウンドで見たトモちゃんが小さく見えたのは、気のせいじゃなかったんだ……。

「作文がコンクールになんか、選ばれなきゃよかった。」

「なんで。」

『わたしのゆめは、男子選手に負けないように、野球を続けて、^{*}六大学のレギュラーになることです』。バカみたいなこと書きちゃった。」

「そんなこと——」

^②「野球の仲間に、きつと笑われる。」

それで、トモちゃんは学校で元氣がなかったのか。

「番長はいいな。みんなに好かれて。打たれても、『ここからだ』『ファイト』っていつでもらえて。あたしなんかと全然ちがう。」

「そんなことないぞ。」

会話に割りこんできたのは、お父さんだった。

「昔は、番長だつて野次^{やじ}られまくったさ。打たれたら、ひどいこといつてるファンもいた。」

「そうなの？」

^③トモちゃんが、まばたきを繰り返した。^{かえ}

「そうだよ。今、番長をみんなが野次らないのは、こわいからさ。」

「こわい？」

「もしかして番長が、もうすぐ引退を決意するかもしれない。このグラウンドを去っていくって決めちゃうかもしれない。そうならないように、みんな必死で声をかけてるんだよ。もつともつと、ここにいてくれ、って。」

目の前で、バルデス選手が犠牲バントを決めた。お父さんは、まわりが振り返るほど大声で、

「よおおし！ ツーアウトだつ。あとひとりっ。」

と拍手を送る。そして、また声^Aを落とした。

— JA1A_2 —

「応援してるっていうより、祈^{いの}ってる、っていうほうが近いかもしれないな。」

「祈^{いの}る……。」

お父さんはトモちゃんの肩^{かた}をぼんぼんとたたいた。

「おじさんが、番長を一番尊敬するところはどこかっていうとね。」

「うん……？」

トモちゃんが顔を上げて、お父さんを見る。

「打たれたときだ。特にホームランを打たれた瞬間^{しゅんかん}。」

「え、さっきも……どんなだったっけ。」

「がつくりうなだれたり、しょんぼりしやがみこんだり、番長は絶対にしない。落ちこんだところをけつして見せないんだ。」

「すごい……。わたしは自分が打たれたら、ガクツとなっちゃう。」

「だれだってそうだよ。おじさんも昔、野球をやってたからわかる。その動揺^{どうよう}を見せないのは、とても強い意志の力とプライド、それからあきらめない気持ちが必要なんだ。」

「あきらめない気持ち……。」

「番長はそれを持ってる。今も、持ち続けている。だからおじさん、はげまされるんだ。自分も、いろいろあっても、シャンとしなきゃって気持ちになる。」

「知らなかった。お父さんが、番長にはげまされてるなんて。」

④ トモちゃんがゆつくりうなずく。

「だから、みんなお願いしてるんだね? 『やめないでくれ』って。ずうっとピッチング続けてくれるって。」

「うん。でも、ムリなお願いをしているのはわかってるんだ。プロ野球選手が引退する年って、平均何歳^{なんざい}だか知ってるかい?」

「え、知らない……。」

「二十九歳くらいなんだ。番長は今、四十二歳。父さんより二歳年上だ。この年まで活躍^{かつやく}してる選手なんて、全球団合わせたってわずかしいない。」

「そうか……。」

⑤ 「現役^{げんえき}を続けてくれること自体、キセキみたいなもんだ。」

またトモちゃんの目^めに涙^{なみだ}がうかんできた。リストバンドでごしごしやっている。

⑥ 「トモちゃんも、歴史を作っていくんだぞ。」

「え?」

「前に向かって進んだり、立ち止まったり、少しもどったり、笑ったり、落ちこんだり。そ

— JA1A_3 —

んな生き様^{いきさま}っていうのかな、まわりは見ていて、応援してるから。」

「そうか、トモちゃんはやっぱり応援される人なんだな。」

「奈奈もだぞ。」

お父さんがいう。そうだ、奈奈も応援される人だ。

ぼくがうなずいていいると、お父さんはこつちを見た。

「広記もだぞ!」

「え……。」

ぼくも?

小さな拍手^{はくしゅ}が起きた。番長が、最後のバッターをセカンドゴロにひとめて、マウンドを降りていくのだ。

「番長!」

「ナイスファイト!」

そんな声が飛びかう。耳に届いているのか、届いていないのか、番長は表情を変えず、まっすぐ前を向いたまま、ベンチへ入っていった。

(吉野万理子『青空トランペット』)

* 六大学……早稲田^{わせだ}・慶應^{けいおう}・明治・法政・立教・東京大学による大学野球リーグ。

* 犠牲バント……打者がアウトになる代わりに、走者を進めることを目的としたバント。

問一

「A「声をおとした」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。」

A ひびく声で言った イ 下を向いて言った ウ 耳のそばで言った

E 小さな声で言った オ 冷静な様子で言った

問二

①「リストバンドで、鼻と目をこすった」とありますが、トモちゃんがこのようにした理由を十字以内で答えなさい。

問三

②「野球の仲間に、きっと笑われる」とありますが、トモちゃんが野球の仲間から笑われる理由を四十〜五十文字で答えなさい。

問四

③「トモちゃんが、まばたきを繰り返した」とありますが、この時のトモちゃんの気持ちを三十〜四十文字で答えなさい。

— JA1A_4 —

④「トモチちゃんがゆっくりうなずく」とありますが、この時のトモチんの気持ちとして**あてはまらないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三浦選手のようにチームのことを考えなかった自分は、仲間から悪口を言われても当然だったと反省している。

イ 勝ちにこだわる強い気持ちと自分への自信を持って、最後まで試合にのぞむ番長を、素晴らしいと思っている。

ウ どんなに苦しくても決してあきらめない三浦選手だからこそ、ファンは声援を送っているのだと納得している。

エ 本当の強さとは、ただ試合に勝つだけではなく最後まで自分を信じてくじけず戦い続けることだと感じている。

オ どんなに苦しくてもあきらめない三浦選手は、多くの大人たちにさえ勇気を与える存在だと知って驚いている。

⑤「またトモチんの目に涙がうかんできた」とありますが、この時のトモチんの気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 試合だけでなく、引退の平均年齢を過ぎても挑戦ちようせんし続けている三浦選手の本当の強さに、感動している。

イ 現役引退の年齢を過ぎても、ファンのために戦い続けなければならない三浦選手を、気の毒に思っている。

ウ 自分には決して出来ないことを長年続けてきた三浦選手がまだ現役でいることを、ありがたく思っている。

エ 自分には、三浦選手のように自分を信じてチャレンジし続けることはできないとくじけた気持ちになっている。

オ いつ現役を引退してもおかしくない三浦選手の試合を、今日観られたキセキと三浦選手の強さに感謝している。

⑥「トモチちゃんも、歴史を作っていくんだぞ」とありますが、お父さんの言う歴史を作るとはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本で初めての女子プロ野球選手として活躍し、プロを目指す女子の目標となること。

イ 時には失敗をしたり悩んだりしながらも、自分の信じる道をけんめいに進んでいくこと。

ウ 周りの人の応援を頼りに、常に仲間のことを考えながら夢をかなえようがんばること。

エ 自分の夢を見つけるために、目標とする人を意識していつも努力を重ね続けていくこと。

オ 予想される失敗をくり返さないように、注意深く一つずつ課題をこなし続けていくこと。

【二】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私は、小学校しか行っていないから、ほんの短い間の思い出しか学校教育についていうのがないけれど、よく母が小学校に呼び出されていたような気がするのです。でも、それも何回くらいか、他の子ほもっと多いのか、まったく知りません。①でも、たいてい私には、こつけないことのように思えたのです。本当の大切なことで、呼び出されているんじゃない……そう思ったんだから、いやな子でしょ。

私ね、近眼で乱視なのです。だから、絵の時間にね、目を細めると、焦点があうの。だから目を細めるのです。それで私の前で、母が先生にいわれているのをききました。

「まりちゃんは、授業中に目を細くして、眠っているみたいなことするんですけど、なぜですか？」

近眼で乱視だから、そのほうがはつきりみえるんだけど、はつきりみえることも写生するのに都合がいいのだけど、なぜ、こう開いたら二つにみえて、細くするとすつとよってくるのか、その違いが目を細くしたり、目を大きくあけたり、そんなことばかりしていたんです。これは、遊んでいたのではなく、私にはとても不思議な不思議な実験でした。でも、絵はいつも、うまいほうだったし、もつと思つたように描きたかったけど、「そのとおりに描きなさい」といわれると、②写生する品物を目でおそうじしているみたいでつまらなくなつちやうんです。そして、家で油絵を描いていました。

また四年生の時、国語の時間に、先生が母にいつているのを聞きました。

「時間中、横見ばかりして外をみているので、ばかにされているように思えて、あの子をさすと、立って正しく答えるので、不愉快。教室ではちゃんと先生を見ているようにさせてください。」

③これも、私はわからなかったのです。小学校の国語の時間、私が別に勉強してきているのではないのだけど、つまらなくなつて、教室の窓から外をみていたほうが、いそがしそうに走っていくおそうじのおじさんの姿や、体操している先生や生徒の姿のほうが、私には、とてもたのしくて、目をはなすことができなかったこと、また、空の雲が大きなや小さなのが、ゆつくり流れたり重なつたりするのが楽しくて、雲にのりたいなとか、ちぎつてみたいなとか考えて見ていたので、先生をばかにしていたのじゃなかったのです。ただそれだけで、ばかにしてたんじやないのです。

そして算数になると、これは、まったくつまらなくて、つまらないのは、これは私がわか

— JA1A_7 —

らなくて、なぜそうなるのか納得しないうちに先にすすむので、私は駄目なんだナと悲しくて、大きな時間でした。だから、ふしぎに、その教科書を忘れて、その時間、立たされていると、他の組の先生が通りかかり頭をおさえて、いいました。「また、立たされているナ、何をした？」「忘れもの。」そのくせ、私は、級長だったりするので、変な小学生だったんだろうと思います。

(中略)

弱い母をもったからか、私自身も弱かったからか、よくはわからないけれど、勉強は好きじゃありませんでした。それも、算数や地理とか、その時の教えられ方に、大きな問題があるのだろうけれど、ただ暗記というのが、にがてでした。いまは、その土地にどんな歴史があるか知った時、行きたくて、見たくて、世界地図が大好きなのだけど、ただ、暗記というのが、いやだったのは、とてもわがままな子であつたということなのでしょうね。

いやでもなんでも、つめこまなければならぬ勉強も、ただおぼえる授業も、それにたえることがなかったら、困ることがいっぱいあるのですもの。⑤ただ私には、それができなかったことでこんな人になつちやつただけで、人はみな、おのおのいいと思います。きめることなんにもないと思ひながら、なまけもの、おかしな子どもだつたと思うのです。変に、感受性だけ、とても強い子、であつたようです。

(中略)

学校に、行っていないことは、こまることもあるかわり、得なこともありました。知らないのですから。すぐ、なぜ、それなぜ？ ととき私は、人々からみたら、いやな、本当は知っているのじやないかと思ひられるいやな歌手にみえたと思います。けれど、本当に知らない。感覚的にはわかるけど、まちがっているかどうかかわらないから聞く私は、いやな歌手であつたと思います。歌手になつても俳優になつても、あまりその場にびつたりでない私。小さい時から、オンブオバケのように自分をみているもう一人のイジワルな私をつれて歩いていました。それから逃げたくて、はでにふるまったり、男の子のような口をきいたり、そして、その後できつて一人泣くおかしな私。

ねむの木学園という、肢体に知恵に家庭にづらいハンディキャップをもつ子の家をつくり、学校をつくり、と考へ行動して十二年になりました。とくべつの動機があつたわけじやなく、もう、小さい時からなんとなく、そうなることをきめられていたような気がするのです。やんなくちゃと思つたら、前後のわきまもなくやつちやう私。そして、一年を三年間くらいつらく感じるこの十年を、私は、意識があり出してから、いちばん、いっしょうけんめい長い間、大きな努力をして、くり返して、つめこんで、暗記して、やってきたようです。も

— JA1A_8 —

う、死ぬのかナと思いました。

あの子たち、可愛いから、吸血鬼、私のからだの中のもの全部吸いとっちゃう吸血鬼、昨夜、熱があつてねいて考えついたら、笑い出してしまいました。いつも、天使みたいって思うのにつて。そして、起き上がれぬまま、今日の学習発表会出席できないこと、電報で子どもたちに、わびました。

一昨日、学園を出る時に「アシタノヨル、カエツクルンダネ、ホントウネ」といった子どもたち、たぶん、私のねる子どもたちの部屋の中のベッドには、お手紙や絵がびつり並べられているはずなのに、私は、行けなかったのです。車に乗ってから、気持ちが悪くなつて下りてしまったのです。苦しい夜が明けて、今朝、目がさめたのは、やはり、学習発表会の時間でした。電話で、子どもたち、私にみせるんだとビデオでとっていると聞き、ほっとしてねむってしまいました。そしてまた目がさめたのは、おわった時、子どもたちからの電話でした。「ゴメンね、みれなくてごめんなさいね」という私に、子どもたちの一人がいいました。「イインダヨ、デンポーアリガトウ、デンポーミテカラ、デンポーガ、カワリニミテカラ、ボク、イッショウケンメイヤッタノ。」

この一言で、起き上がり、明日の準備にかかりました。特殊学級だったのを、四月から私立の養護学校を設立したため、金銭的にも、人間的にもたいへんなふたが私にまたかかってくるのをかくごし、授業のカリキュラムをたてなくちやと、会議する日をきめる私。二十歳以上の子を立派に社会に出させるため高等部をつくった私。そして今日、成人した人たちのための新しい棟を建てる許可の、厚生省へのお願いの書類に判をおした私。

だつてあの子たち、私のように好きな学科はとつてもよくても、人から知恵おくれとよばれる子なのですもの。走りたくても走れない、部屋にとじこもつて空みてる子なんですもの。ガラスにうつったなにかをみて、こわいと気絶する子なのですもの。九歳の弟の慟哭する首すじを、あの子たちの髪をカットしてあげるたび、思い出します。あの時、私も子どもだったから、抱いてあげることができなかった九歳の弟に、十二歳の心で私が髪をきります。マリコサン、といま呼ばれること、不思議で不自然であるはずなのに、あの子たち、私が十二歳の心でいること、ちゃんとわかつているんです。

ねむの木学園で、子どもたちが教室のほうで勉強している不思議な静かな朝、ちよつと横にならせてもらう時、いま、死んだら幸せだナと思います。「オソトハトツテモ、アツイカラ、白イオボウシカブツテアソブノデスヨ」私も、きつというでしょう。母が私にくれた教育、幼い時からの意識しない体験。いやーな子、おかしな子、へんな子といっぱい書いて、いやーな子って書いたって本当にいやーな子じゃなく、おかしな子ってよんでくださるだろ

うナと思つて、ほら、いやーな私。

だから私は、まだまだ生きなければならない、自分勝手に自由に生きてきたから、今また、自由に生きているから。でも、ツメコマレ、オシコマレもおぼえなければならぬ勉強があるように、その勉強をしなかった私は、今、いやおうなく、ツメコミ、オシコミ、勉強し努力し仕事をしなければいけないのです。

(宮城まり子「私、もう一人の私」『わたしの少女時代』より)

* 肢体……手足とからだのこと。

* 電報……電波や電流を使って文字などを送る通信のこと。

* 厚生省……現在の厚生労働省のこと。

* 慟哭……悲しみのあまり大声をあげて泣くこと。(筆者とその弟は幼いころ母親を亡くしている)

問一 ①「でも、たいいてい私には、こつけないことのように思えたのです」とありますが、なぜそう思つたのですか。その理由を三十字以内で答えなさい。

問二 ②「写生する品物を目でおそうじしているみたいでつまらなくなっちゃうんです」とありますが、目でおそうじをするとはどういうことですか。十五字以内で答えなさい。

問三 ③「これも、私はわからなかったのです」とありますが、私はどういうことがわからなかったのですか。三十五字以内で答えなさい。

問四 ④「私は、級長だったりするので、変な小学生だったんだろうと思います」とありますが、学級委員のようなクラスリーダーだった自分のことを、どうして私は変な小学生と思つたのですか。二十五字以内で答えなさい。

問五 ⑤「私には、それができなかったことでこんな人になっちゃった」とありますが、私はどんなことができなかったのですか。十五字以内で答えなさい。

⑥「昨夜、熱があつてねていて考えついたら、笑い出してしまいました」とありますが、私が笑い出した理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア むじやきに遊ぶ子どもたちの様子は見ていなくても心がなごむが、ふざけながらいたずらをしている時のすがたは、かわいらしい小さな怪物を想像させるから。

イ 自分を喜ばせるために時間をかけて学習発表会の準備をしている子どもたちに対して、わけも分からず、心の中であまりにもふつりあいな表現をしてしまったから。

ウ 子どもたちの幸せのために全力をつくそうと決意しているにもかかわらず、愛情をかけている子どもたちのことを、うっかり恐ろしい怪物にたとえてしまったから。

エ いつもいっしょうけんめいがんばっている子どもたちではあるが、学習発表会の準備がうまくいかなかった時は、感情的になったわがままな怪物のように感じるから。

オ 高熱が原因で心の奥にひそんでいた本心が表れ、いつもは天使にちがいないと確信している子どもたちのことを、この時は怪物と思いこんでしまったから。

⑦「マリコサン、といま呼ばれること、不思議で不自然であるはずなのに、あの子たち、私が十二歳の心でいること、ちゃんとわかっているんです」とありますが、この一文を説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもたちが先生でもある筆者のことを同世代の友達のようにとらえているのは、筆者が感受性豊かで想像力を生かした仕事をこれまでたくさんしてきたことを理解しているからである。

イ 子どもたちが先生でもある筆者のことを同世代の友達のようにとらえているのは、筆者が自分の個性を大切にして自由に生きてきた強さを持っている人物であることを理解しているからである。

ウ 子どもたちが先生でもある筆者のことを同世代の友達のようにとらえているのは、筆者が多くの人たちからきられてきた自分の欠点をなおす努力をしてきたことを理解しているからである。

エ 子どもたちが先生でもある筆者のことを同世代の友達のようにとらえているのは、筆者が自分たちと同じように勉強が苦手であつた経験がたくさんしてきたことを理解しているからである。

オ 子どもたちが先生でもある筆者のことを同世代の友達のようにとらえているのは、筆者が子どもたちと同じようなじゅんすいでやさしい心の持ち主であることを理解しているからである。

⑧「だから私は、まだまだ生きなければならぬ」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア いじわるでがまんすることが苦手だった子どもであつたことをくいてきた自分を社会で生かすには、つらいハンディキャップに苦しむ子どもたちのために生きていくことが、自分に一番ふさわしいと考えているから。

イ 歌手としても俳優としても成功した自分ではあるが、まだまだ成し得ないことがたくさんあり、養護学校の経営を安定させるためにも、多くのことを勉強して仕事もしていかなければならないと考えているから。

ウ なまけものでわがままな子どもであつた自分が今あるのは、幼いころ意識しなかった様々な体験があると信じており、ハンディキャップを持った子どもたちにこそ、自分と同じ体験をさせることが必要だと考えているから。

エ 幼いころからの反省すべき自分の生き方を正す努力をしながら、ハンディキャップを持つ子どもたちが、社会に出てからも立派に幸せに生きていけるよう、手助けする使命が自分にはあると考えているから。

オ 自分勝手に自由に生きてきたことで、多くの人たちにめいわくをかけてきたことを心から反省し、そのすみほろぼしのためにも勉強や仕事に一生けん命取り組んで、社会のためになることをしようと考えているから。

【三】

次の①～⑩の の漢字はひらがなに、カタカナは漢字になおしなさい。

- ① 胸に迷子札をはる。
- ② 乳歯を大切にとつておく。
- ③ 軽装で山に登る。
- ④ 休みに郷里に帰る。
- ⑤ 山頂に至る道を進む。
- ⑥ オルガンをドクソウする。
- ⑦ 海外へのイジユウを決意する。
- ⑧ エンセンの風景を楽しむ。
- ⑨ 不安な要素をノゾク。
- ⑩ 香りが部屋にミちる。

[illegible][illegible]

⑨	⑦	⑤	③	①
く		る		
⑩	⑧	⑥	④	②
ちる		する		

【三】

[illegible]

在 学 校	区 市 町 国 私 立	小 学 校	受 験 番 号		氏 名	
-------------	----------------------------	-------------	------------------	--	--------	--